

ぼくら、かぶのおいしさ伝え隊

3年

総合×国語

松山美香, 太田紗彩

学習のゴール

自分たちで育てておいしさを知ったかぶをたくさん食べてもらうために、かぶ農家の工夫や給食献立の工夫等、かぶの魅力を校内や校外に発信する。

身に付けさせたい力

- ・社会科で学習した農家の工夫やインタビューして知った給食献立の工夫について、情報を整理し、かぶを食べてもらえるように、表現方法を工夫して広報をすることができる。
- ・友達との相互交流や保護者への中間発表を通して、広報資料の改善点を見だし、よりよいものへと修正することができる。

情報活用能力ベーシックによる学習のプロセス(16時間)

学習プロセス	時	学習内容
1 課題の設定	1	○かぶ農家についての学習を振り返るとともに、2月の給食でかぶ料理が出ることを知る。 ○かぶ料理をもっと食べてもらうために、何ができるか考える。
2 情報の収集	2 3	○どのようなことを伝えたいか整理し、「かぶ農家の工夫」「給食献立の工夫」「かぶの特徴」等で担当を決める。 ○社会科で見学して学んだかぶ農家の工夫について振り返り、必要な情報を整理する。 ○栄養教諭にインタビューして、給食献立の工夫について知る。
3 整理・分析	4 ～ 9	○広報方法でグループに分かれ、広報資料を作成する。 ○中間発表を行い、他のグループや保護者から意見をもらって改善点を見いだす。
4 まとめ・表現	10 ～ 15	○広報資料を修正する。 ○ホームページ委員会に広報掲載の依頼をする。
5 振り返り・改善	16	○広報資料を公開する。 ○広報資料についてアンケート調査をする。 ○自分たちの活動について振り返る。

実践の流れ

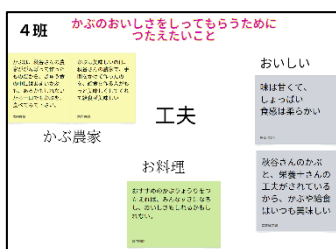
1 課題の設定(1時間目)

2学期の社会科の学習で、「かぶ農家の工夫」について学習した。かぶ農家見学をし、畑や農機具、様々な工夫を実際に目にすることができた。また、学校園を活用し、かぶを自分たちで育てた。収穫したかぶは持ち帰り、各家庭で様々な料理で食し、かぶの美味しさを実感した感想がたくさん挙がった。これらを振り返ることで、子供たちは「かぶはおいしいから、もっとみんなにたくさん食べてほしい」という思いを持った。

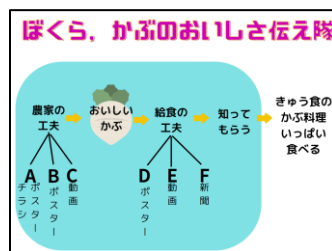
そこで教師から、かぶを使った料理が2月の給食で出ることを伝えると、「かぶのおいしさをみんなに伝えて、もっとかぶを食べてもらいたい」との声が上がり、広報資料を作る活動に取り組むこととなった。

2 情報の収集(2・3時間目)

具体的にどのようなことを伝えたいのか付箋に書き出して分類した。「かぶ農家の工夫」「給食献立の工夫」「千葉県のかぶ(おいしいかぶ)」等に分け、それぞれの担当を決めた。担当ごとに、これまでに学んできたことを整理し、どのようなことを伝えるか計画を立てた。「給食献立の工夫」グループは、栄養教諭にインタビューして、情報を集めた。インタビューすることでさらに知りたいことが増え、追加で質問する様子も見られた。



付箋の分類



担当決め(保護者向け案内)



栄養教諭へのインタビュー

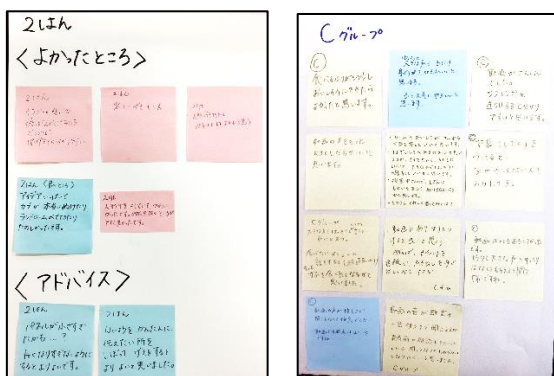
3 整理・分析(4～9時間目)

担当内は、広報方法でさらにグループに分かれた。広報方法は、子供たちがこれまでに経験してきた「模造紙に作成する新聞」「Canvaで作成する新聞」「劇を動画に撮る」といったものが挙げられた。また、これまで4～6年生がクラスルームやホームページを活用して広報しているのを見ていたため、作った広報資料は同じようにクラスルーム等にも載せたい

という案も出された。

それぞれが思い思いの方法、内容で広報資料をまとめ、自分たちで見直しをしていった。しかし、自分たちの経験、思考ではなかなか改善の視点が見いだせないで、作ったことだけに自己満足している姿も見られた。そこで、授業参観の場を活用し、友達と保護者に向けて中間発表を行い、意見をもらう機会を設けた。

子供たち同士では、同じ内容の担当から「もっと〇〇の内容を入れた方がよい」という意見や、同じ広報方法の担当から「見出しを入れた方がよい」「動画は話すだけでなく、文字を見てわかるようにした方がよい」といった意見が出た。保護者からは、全体のまとまりや、主題とイラストとのバランスといった子供たちでは気付かなかった意見が出た。また、保護者の意見を聞くことで、自分たちが言われたことを今度はアドバイスする側で同じような意見を言う子も見られ、話し合いがだんだんと深まっていった。



保護者からの意見

4 まとめ・表現(10～15時間目)

中間発表でもらった意見を整理した。よかったところには自信をもってそのまま継続すると決め、アドバイスでもらったところはどうかグループで話し合って整理してから修正活動を行った。中間発表前に比べ、具体的にどうしていきたいか、また「伝える」ことを意識した発言がより見られるようになった。

出来上がった広報資料は、それぞれに掲示や配布をするとともに、ホームページ委員会に掲載を依頼した。

5 振り返り・改善(16時間目)

※2月29日(木)の給食でかぶ料理が出た後に実施する予定

※保護者にも仕上がったものを見せ、アンケートを実施する予定

子供たちの感想等

<中間発表終了時点>

- ・自分たちでもわからなかったことや気付かなかったことなど、アドバイスを参考にしたいです。特に一番多い意見を参考にしていきます。
- ・おうちの人たちからもらった意見を直すことができれば、すぐによいチラシになると思いました。
- ・お母さんたちの意見を聞いて、少しほっとしました。
- ・もらったアドバイスをもとに、さらにくわしく説明してわかりやすく伝えたいです。
- ・字の大きさについて意見をもらったので、すぐ書き直して見やすくしたいです。
- ・文章はみんながよいと言ってくれたので、字の色やイラストはそのままにしようと思いました。見出しはかえていこうと思います。

子供の変容

児童を対象に事前調査（10月かぶの収穫前）、中間調査（2月）を実施した。

以下の質問項目に対し、児童は「4：当てはまる」「3：どちらかといえば当てはまる」「2：どちらかといえば当てはまらない」「1：当てはまらない」の4つの選択肢で回答している。

○集めた情報から、大事なことや必要なことを選び出すことはできていますか。

2. 92 → 3. 20 ↗

○学校で学習したことをだれかのために役立てたいと思いますか。

3. 40 → 3. 46 ↗

2つの項目において、意識の向上が見られている。活動のゴールを明確にして取り組み、中間発表の場で認められたり、改善のポイントを見いだしたりしてきたことで、広報資料がよりよいものとなってきている実感があるからだと考える。

伝わった達成感はまだ感じられていないため、今後振り返りを実施していく予定である。

創造性を育む学びのポイント

Point！ 内容に合った広報の方法を選択

広報の方法は限定せずに、子供が考えた方法から選択させた。ポスター、チラシ、新聞、スライドをCanvaで作成したり、カメラ機能で動画を作成したりしてクロームブックを使用するグループもあれば、新聞やポスターを手書きで作成す



手書きで資料を作成する様子

るグループもあった。各々の興味関心と得意を活かしての活動となり、意欲的な活動につながる事ができたと考える。

Point！ 保護者への中間発表

子供同士で見せ合い、互いにアドバイスをしようとしても、なかなか改善の視点が思いつかない現状がある。そこで、授業参観で保護者からもアドバイスをもらうことで、新たなポイントに気づき、修正の方向性を見いだす機会となる。また、保護者に途中経過と完成を両方見せることは、子供の成長を知らせるとともに、学校での学習過程を知ってもらうことができ、保護者にとってもよい機会となると考える。

保護者から協力を得られるよう、事前にクラスルームで案内及び依頼をしておいた。その際、目的やほしいアドバイスについても知らせておいたので、途中から参観した保護者からも協力を得られた。当日は、付箋を用意して、口頭または付箋への記入でアドバイスをもらうようにした。



**授業参観で保護者から
アドバイスをもらう様子**